



玄惠頓哲遺作
 北隱上卷筆
 永壽庭訓
 文化戊辰再版
 西村永壽堂印



<h1 style="text-align: center;">庭訓</h1> <p style="text-align: center;">十二卷 親和公</p>		増補目録	
		小児書画と学圖 偏傍冠構の圖 書札端作の言不 和朝文法秘訣鈔 大坂獨案内記 大日本國名盡 五姓名頭文字 吾妻百官名盡 萬寶大雅書 不成就時の夏 五姓居判の圖	墨筆硯紙の圖 諸狀封方の圖 鯉魚庭訓の圖 同訓異用文字 江戸諸職住来 大日本國異名 雲上百官名盡 本朝年号用字 不成就日の夏 願成就日の夏 人間教誡の奇



唐土の小児八歳乃始り小学校
 の奉勅後教と教士八歳
 乃んで大学校へ今を至賢の
 乃らば一先之書法と
 あつては学文書法は
 天下の通矣なり
 又書画を幸一作の
 物あり其言と文字
 の上に於り画は方お
 の形をわたり其
 共此四處の中にて
 其徳用度大なり
 又其のしるし丹着
 して和漢畫家の
 傳説ものゆゑ
 おく

篆 偏冠 構 盡

禾 王 十 里 子
 田 邑 官 八 伊
 目 鼻 骨 骨 足
 力 耳 口 舌
 牙 牙 骨 骨
 齒 骨 骨 骨
 會 骨 骨 骨
 食 骨 骨 骨
 肉 骨 骨 骨

墨の説

黄帝の時より作り
 とりて戦國に
 薛稷といふ人始りて
 墨とけりて
 日本に高麗より
 十八年高麗より
 墨を傳へて
 墨を傳へて



筆の説

虞舜といふ帝より
 本筆は作りて
 後秦の世に蒙恬といふ
 人筆毫を作りて
 今
 墨を傳へて
 日本に高麗より
 十八年高麗より
 墨を傳へて



硯の説

黄帝の代に
 硯の揚雄といふ
 唐乃韓退之毛穎傳
 と云文を作らば
 と管城子墨瓜陳玄
 紙を猪先生硯と陶泓と美名をり



紙の説

古竹筒より
 通用とて後漢の代
 蔡倫といふ人樹
 皮を麻頭布魚網と
 搗りて今の紙と作り



豆 夫 金
 角 舟 水
 肉 骨 骨
 火 火 山
 日 火 山
 牛 才 魚
 子 虫 貝 草
 章 台 巾 衣
 米 片 家 衣
 古 束 公 本
 白 牙 老 手
 白 車 齒 牙

交	爪	广	田	声	鬼	司	臣	馬	子
士	父	巾	雨	四	齊	龜	击	赤	赤
血	母	竹	戸	九	麻	倫	良	赤	赤
方	母	气	厂	九	引	廉	見	谷	谷



○この頃の硯は...
 ○刑人のあては...
 ○まのあては...
 ○行のあては...
 ○筆のあては...

春 殖 折 曲 回 捨

筆を 當り

折

殖

回

捨

幸	光	占	至	呂	羽	戈	尺	斤	頁
它	山	夕	羊	音	寸	鳥	才	女	夕
千	中	月	甲	員	長	佳	尺	夕	夕
不	尺	丁	申	色	及	西	尺	夕	夕



筆を...
 一...
 ...
 ...

筆を...
 ...
 ...
 ...

編盡終
 夬
 夬
 夬
 夬

諸狀討方并書札指簡

表 長	表 中	表 上	表 下	表 長	表 中	表 上	表 下
長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長

書札指簡之事
 筆管上仕彼上之指筒
 筆管上仕彼上之指筒
 筆管上仕彼上之指筒
 筆管上仕彼上之指筒
 筆管上仕彼上之指筒
 筆管上仕彼上之指筒
 筆管上仕彼上之指筒
 筆管上仕彼上之指筒



庭訓往來
 春深柳色
 貴方史記
 軍方通以書其
 物其心期日之
 如新舊
 延引

凡類者もあつたむ
子も誤重之簡行
とゆゆる程の毒を
一葉ふらつて世の
文章の中幸ふ事
習ふるの状面なる
あなれ敷もかた不
都合と事ありとて
あつたむ
余り繁多かりとて
こゝろに送て
とこの世俗の中
誤の正のそと

改心の方とあるが
俗に人の正まへの
文言小へていふ非
かて預かとの文
字の同字より外と
人つらわれ字あり
俗に文正正正同
輩乃文通中とて
非なり大なるは
俗に何事と
正にさし
文言小愛のほ
ふ不吉あり
俗に何事と

遊日類類
揚ら獲ら
會草鹿
的
為常
沙
思

事
能
心
漢上
改
目

しりぞくと有る小所の
字つゝの誤なり
俗 送下下まねの
正 送下下の文を
下 下つてつゝまね
ねん の誤動伴あり
ふつ 合つてつゝまね
俗 物子正物まね
主の 俗人の物まね
下 下かかへまね
俗 下上上下下
正 上上の字を
の 下下下下下
俗 一考合考正一考
の 文言なり

其れ故身之如馬陽極其結
 環まの凍中解落處の故
 履ねは処見化故清も
 百も達夫究是之上
 之國乃也但的夫養員
 使公程瓶夫府中保
 物まきまの毒をたの
 得清き方の物まなる
 二傳の面物之作の
 正月六日 石舟寺中原

と 物まはつて
より 外まはつて
と 物まはつて
俗 花物まね
正 花物まね
正 花物まね
下 下つてつゝまね
俗 教語文章正
教 の字はナ

西平は中絶の如く
 沙之原左衛門尉
 正月六日 石舟寺中原

もまゆくおのれ
つふかりの安全
いそ人般様じそ
きふ文は也同文章
のしりあやりの
不借れり文脈は余
文種もかねと也
俗世間沢山正と書
の二字替文章と
かこは山中のま

俗御書味より正
は方より先つと
る相の障か早りと
書がはぬい方の者

と書味と書乃のま
そくやと書味
かゆりへれ先
しり乃の書味
書味書料と書
俗宛書が正宛
書味書乃のま
ま生を成いそ書
いづらひのふま
不吉のなり也
俗御書門正平人の
通南めり書乃のま
つと御大書家
かこは山中のま
移すとすて門の

書は是れ此御書味の本
懐書は心成紙
任地年と決りて

二月廿二日 彈正忠三善

活之大監物殿

秋自是より心成紙

心成書は書味本下と云の
むる月日き堅く書乃のま
書加書乃のま書乃のま
叶々懐書は書乃のま
藤林は書乃のま書乃のま
心成書は書乃のま書乃のま

字の平人へはうらね
 下りの倍もあつね
 けりま一門のくく
 つしと勿作なれし
 紫く一門のくく
 乃かつかくねりて
 氏もふ親類を
 が用なりゆき
 とふ一門より又
 合維後降るの正人
 のむりりの文は
 天のぬちあふ
 降るのよま
 ね

因は討たるべき
 何れも人直風
 陣頭は折る冠
 是信也打城
 乃及官家
 賊は信は頼
 頼は信は頼

俗ゆえ正は驗
 俗御も正世
 平人つふは
 平人の人へは
 〇凡の字は
 儀は正は
 てのまも
 らるの習の字は
 白の字は
 牛別鳥の
 記と鷹の
 と何とをの

因は討たるべき
 何れも人直風
 陣頭は折る冠
 是信也打城
 乃及官家
 賊は信は頼
 頼は信は頼
 二月廿二日 監物出源

の界より徳西の者
 へいひりたるも
 つひに蕭たるも
 照のゆくも
 ゆえくくも
 性の一も
 けのゆも
 ○九一也
 けのま
 りが
 へん
 〇九一也

律と弾を患及法事
 位を杖入るを難事也
 度は追事也
 月曜の法は
 欠部事
 成り

〇世一も
 出
 〇九一也

混れ伝
 急也
 法事
 他
 法事
 東化



○同書より上の如く
 どのつくりのいづく
 半づきどり策の
 のこ中人よりこと
 又以上の上とまを
 うぐさ
 ○まておのまを
 中後どの書付の文
 言のうりゆきの
 物をまの挨拶と
 まるうす用書と
 実言やるは
 ○同書より上の如く
 どのつくりのいづく
 半づきどり策の
 のこ中人よりこと
 又以上の上とまを
 うぐさ
 ○まておのまを
 中後どの書付の文
 言のうりゆきの
 物をまの挨拶と
 まるうす用書と
 実言やるは

聖行の裁葉園同の御世に
 下條の書懷を勤仁と書
 之る御世に
 三月七日 玄蕃元平
 御政所敷
 枝下條の書懷を勤仁と書



同書より上の如く
 どのつくりのいづく
 半づきどり策の
 のこ中人よりこと
 又以上の上とまを
 うぐさ
 ○まておのまを
 中後どの書付の文
 言のうりゆきの
 物をまの挨拶と
 まるうす用書と
 実言やるは



獨 樹 果 花 葉 墓 塚
 陵 帝 墳 塚 塚 塚
 橋 本 圮 塚 塚
 橋 本 圮 塚 塚
 華 本 鼻 政 人

森 旗 函 管 根 射 莫 禱 疼 痛 卑 怒
 雜 本 旗 幡 箱 柱 旗 倫 入 惆 副 愠
 雷 旗 幡 箱 柱 旗 倫 入 惆 副 愠
 圃 林 幢 籠 運 楹 斷 沒 居 傷 防 狀

年一玄甫元殿河也の
 二月十三日 在傍の耐橋
 下へ其に板敷居る之に橋
 公も是れ末落居る黄伏の
 大痛出出也其長を主
 從軍記存下大詔の
 下へ其に板敷居る之に橋

橋合梅袖下へ其に板敷居る
 推橋梅袖下へ其に板敷居る
 車梅桃李楊梅把杏葉梅葉
 上意を謀は湯薬を
 二日下へ其に板敷居る
 下へ其に板敷居る

虫の 漏れ 和半 取の 捕執 右の 採把 振の 友朋 唱の 科咎 訪の 失時 過の 智知 散の 智知 童の 盗賊 俞の 蜜糖

柳の 山 香 幽 未 道 并 今 沼 烟 洞 洞
 櫻 花 散 舞 蝶 舞 翔 仙 樂 舞 舞 舞 舞
 木 松 杉 柳 榊 輪 師 津 浜 前 庭 院 石
 木 原 後 渡 笠 法 義 貴 皇 皇 皇 皇
 棋 取 漁 乃 海 未 沙 白 粉 撲 撲 撲 撲
 帽 藏 高 人 清 聖 弓 矢 細 深 草

糖の 貫抜 刺の 脱 債の 送人 教の 訓 台の 理 念の 思 織の 折 著の 箸 碗の 離

古 雲 作 傳 師 筆 塗 撰 師 待 人 種 未
 甲 未 解 子 音 花 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛
 子 傾 城 白 拍 子 遊 女 歌 歌 歌 歌 歌 歌
 法 陽 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛
 族 武 禪 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛
 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美



能 詠 詠 詠
 排 詠 詠 詠
 誦 誦 誦 誦
 吉 誦 誦 誦
 良 誦 誦 誦
 義 誦 誦 誦
 佳 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦

古 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦
 誦 誦 誦 誦

臣 江 松 後 母 の 幼 子 也 母 之 存 之
 卯 月 八 日 前 宋 女 也
 中 勢 忠 敏
 幼 子 也 母 之 幼 子 也 母 之 存 之
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
 松 乃 若 也 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

者 主 紀 實 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德
 幼 子 也 母 之 幼 子 也 母 之 存 之
 卯 月 八 日 前 宋 女 也
 中 勢 忠 敏
 幼 子 也 母 之 幼 子 也 母 之 存 之
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
 松 乃 若 也 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

解^解可^可富^富住^住の^の合^合
 快^快の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 相^相の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 立^立の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 裁^裁の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 簡^簡の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 扶^扶の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 積^積の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 蓄^蓄の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 業^業の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 間^間の^の世^世の^のた^たの^の店^店

川尻刀村人建坂本馬借島昭白河
 車借酒借上陸之船津浦宮凡河
 倉飛也等者有等易宜普庫和冷
 手製文五道也元東町人漢也金
 富復事半以河澤似道上方書書
 手製文五道也元東町人漢也金
 倉飛也等者有等易宜普庫和冷
 川尻刀村人建坂本馬借島昭白河
 車借酒借上陸之船津浦宮凡河

鼻^鼻の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 耳^耳の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 舌^舌の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 唇^唇の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 初^初の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 塘^塘の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 連^連の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 做^做の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 雙^雙の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 著^著の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 附^附の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 附^附の^の世^世の^のた^たの^の店^店
 撞^撞の^の世^世の^のた^たの^の店^店

新着進上と但教教運運次大
 全人後津浦津費六條は物松懸組
 宇佐若人官領島丸鳥惚子壹町份
 手製文五道也元東町人漢也金
 利の平原新書疾山宗金城金箱
 仁智眉丸師流汗鞍の本并漢

吹流浪下藤素娘如地煉珠血
吹流浪下藤素娘如地煉珠血
吹流浪下藤素娘如地煉珠血
吹流浪下藤素娘如地煉珠血

此胡島頭布東... 如美坊丹... 大信濃布... 衣美濃... 廣深... 前乃...

拍打... 敲討... 撞撞... 寫磨... 眼... 絶... 邑... 備... 出... 全... 肉... 柄... 心...

備中... 出... 全... 肉... 柄... 心... 備中... 出... 全... 肉... 柄... 心...



及 音 望 延 宣 糊 吞 登 鮮 卷 貴
 及 音 望 延 宣 糊 吞 登 鮮 卷 貴
 及 音 望 延 宣 糊 吞 登 鮮 卷 貴
 及 音 望 延 宣 糊 吞 登 鮮 卷 貴

進上 宋女 敬
 五之 海内 諸侯 封也 何日 披襟 芳
 式也 國法 多矣 平爾 何如 意之 相
 周東 尚矣 念之 家之 今茲 源之 度
 采采 可也 國之 中矣 打者 若也 意
 身若 漢矣 方之 敬矣 宋女 敬矣 封矣

卯月十日 中勢 惠法 志
 運其 乃者 也也 治之
 有集 下志 志志 志志 志志 志志 志志
 在也 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
 種念 九也 也也 也也 也也 也也 也也
 條之 江來 來來 來來 來來 來來 來來
 條之 江來 來來 來來 來來 來來 來來

深^カ 出^デ 出^デ 出^デ
 奥^ウ 大^{ダイ} 伏^{ボク} 伏^{ボク}
 虚^コ 昔^{ソコ} 昔^{ソコ} 昔^{ソコ}
 踏^{フミ} 踏^{フミ} 踏^{フミ} 踏^{フミ}
 船^{フネ} 舟^{フネ} 舟^{フネ} 舟^{フネ}
 殺^{コロ} 殺^{コロ} 殺^{コロ} 殺^{コロ}
 書^{カキ} 書^{カキ} 書^{カキ} 書^{カキ}
 琴^{コト} 琴^{コト} 琴^{コト} 琴^{コト}
 吸^{スビ} 吸^{スビ} 吸^{スビ} 吸^{スビ}
 芦^{アシ} 芦^{アシ} 芦^{アシ} 芦^{アシ}

此後梅の果はよくつる候は
 五月九日 左の事
 手上一巻の所は致し御飯
 不審方とも又も悪くも
 物候は冷はなり唯細く尤も
 物候は冷はなり唯細く尤も

暑^{アツ} 暑^{アツ} 暑^{アツ} 暑^{アツ}
 窓^{マダラ} 窓^{マダラ} 窓^{マダラ} 窓^{マダラ}
 洞^{アナ} 洞^{アナ} 洞^{アナ} 洞^{アナ}
 上^{ウヘ} 上^{ウヘ} 上^{ウヘ} 上^{ウヘ}
 拳^{ケン} 拳^{ケン} 拳^{ケン} 拳^{ケン}
 始^{ハジ} 始^{ハジ} 始^{ハジ} 始^{ハジ}
 悪^{アク} 悪^{アク} 悪^{アク} 悪^{アク}
 懼^{オソ} 懼^{オソ} 懼^{オソ} 懼^{オソ}
 浴^{ユク} 浴^{ユク} 浴^{ユク} 浴^{ユク}

備前 自身は病ふも
 其より痛む其より痛む
 進んで馬を種様善味は
 郎は梅を初対海月梨斗地梅
 干煎地干煎固乾一踏身行善
 海風も先菊摘り新摘は余矣

及ス 利計と
 整ふ 小利計と
 士夜侍 竿竹の
 掉舟 篙使の
 統 西小瀑あま
 御 衣盛あ
 壮人の 醒の 寐月の
 涼の 冷の 覚の
 後 鏡 (き) 聴
 喚 利の
 智の 明の 可の
 桐 格 かり

天 霧 疾 疾
 刀 切 切 切
 名 名 名 名
 極 極 極 極
 究 究 究 究
 曲 曲 曲 曲
 行 行 行 行



維光 房 鴨 鶴 産 如 多 比 鳥 香
 恒 者 毎 日 胡 泥 糞 糞 糞 糞
 了 蘇 精 精 漢 干 鳥 干 乾 干 麻
 干 心 肺 如 燒 反 延 香 裡 以 渡 橋 本
 如 鳥 骨 骨 骨 骨 骨 海 南 腸 筋 筋 鳥
 俄 辛 螺 螺 螺 螺 螺 螺 螺 螺 螺 螺 螺

或 賞 儀 或 儀 或 儀 或 儀 或 儀
 車 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
 廿 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日
 友 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京
 い 中 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心
 鉄 謀 謀 謀 謀 謀 謀 謀 謀 謀 謀

① 同 眼 食 衣
 ② 道 陸 海
 ③ 肝 肺 腎
 ④ 盈 流 壑
 ⑤ 潮 汐 風 雨
 ⑥ 寂 閑 靜 幽
 ⑦ 畫 論 書 畫
 ⑧ 柄 柄 柄 柄
 ⑨ 橋 枝 枝 枝

① 庭訓 卷之五
 ② 庭訓 卷之六
 ③ 庭訓 卷之七
 ④ 庭訓 卷之八
 ⑤ 庭訓 卷之九
 ⑥ 庭訓 卷之十
 ⑦ 庭訓 卷之十一
 ⑧ 庭訓 卷之十二
 ⑨ 庭訓 卷之十三
 ⑩ 庭訓 卷之十四

① 陶 壺 砂 沙
 ② 鹿 抗 好 好
 ③ 山 耕 耕 耕
 ④ 茅 藥 藥 藥
 ⑤ 茶 葉 葉 葉
 ⑥ 茶 葉 葉 葉
 ⑦ 茶 葉 葉 葉
 ⑧ 茶 葉 葉 葉
 ⑨ 茶 葉 葉 葉
 ⑩ 茶 葉 葉 葉

① 庭訓 卷之十五
 ② 庭訓 卷之十六
 ③ 庭訓 卷之十七
 ④ 庭訓 卷之十八
 ⑤ 庭訓 卷之十九
 ⑥ 庭訓 卷之二十
 ⑦ 庭訓 卷之二十一
 ⑧ 庭訓 卷之二十二
 ⑨ 庭訓 卷之二十三
 ⑩ 庭訓 卷之二十四

大坂揚業内

難波津大坂町

中津迫五法

通光系揚之町

播磨朝之市片町

之末津同屋細

清之俣人込上江

之坊揚子架揚

市澤天酒川崎

吹井清木高南

新骨車作青

物之市基揚卷

所天神之柳本

言ふ大根草

高河縄遠

高人業藤町

銅乃之那波

揚之朝糧大仏

條と揚草屋

五智屋通出町

目下之途果日義人今之形者合

我者人勿出言者前住之年之途

何者入揚中出言者果者義者

上下給揚揚旗也清也威者威

疾之探者其成揚也忠者上揚

果之清也揚揚揚揚揚揚揚揚

かた果者義者地者上者揚揚

大位頼揚者清也揚揚揚揚揚

揚揚揚揚揚揚揚揚揚揚揚揚

の月古者 揚揚揚揚揚揚

僅上揚揚揚揚揚揚揚揚揚揚

果之清也揚揚揚揚揚揚揚揚

煮物山漢ひやうに依
 物言ものことば蘇栢そはく備
 吾わが甲師かし控衛くわゑ
 新物しんもの坦たん美み九く古こ
 手て屋や之の人ひと町まち
 陰かげるる原はら風かぜ屋や
 伏ふ下した町まち出で丸まる店たな
 道みち修しゆ町まち其その屋や
 之の屋や宗むね板いた某なにか
 作しよ下した町まち小こ金かね

信しん之の乘り舟ふね下したなる者もの舟ふね乗り上の上に
 杉すぎ我われ地ち出で年とし集あつむ事こと我われの地ち聖せい生せい論ろん
 台たい院いん堂どう志し然ぜん気きは有あり友とも友とも友とも心こころ
 他たと指さしも有あり御ご僧そう御ご津つ津つ津つ債せう
 業ぎふ業ぎふ業ぎふ信しん信しん信しん信しん信しん信しん信しん信しん
 家け漢かん業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ

市いち傘かさ角かく細さい工こう
 使し六む石いし賽さい下か
 お梅おんぼし櫃び本ほん筋すぢ
 衣え履り指さし足あし筋すぢ
 新しん也や是こゝろもあま



初はつ接せつ也や其その家け存ぞん在ざい念ねん初はつ也や念ねん沙さ路ろ
 於お及及び深ふか穿く穿く也やの心こころ以もつ此こゝろ能ぞ自みづか因に法ぽう字じ
 映えい薄はく也や其その法ぽう持ぢ持ぢ其その業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ
 鼻び頭だう有あり信しん業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ
 其その也や可か信しん也や也や其その業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ
 其その也やの信しん也や也や其その業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ業ぎふ

新大漢筋地
小児之乳

弓矢相子校授

常備忠張張

筋望相柳少男

相柳扇多淡

物所戸漆又

物和屋を丁固

武カをるるを和

合和服指振

銅松磁黄瓶

治屋所筋漆然

大工より方を指

曲尺絶絶者也

柜琴箱釘黄
所推鐘漆お
尾町筋屋者
治屋何後町減
足袋名臭之柳
赤土町以檀香

中後。花盛。深澤。赤草。夏法

版。方。後。小。揚。里。軍。後。全。首。同

凡。播。同。其。來。成。版。也。里。白。打。頭

軍。方。白。軍。省。則。同。之。種。中。日。蓋。播

死。中。首。道。家。考。行。之。類。版。初。錄

平。打。正。天。海。切。有。書。上。當。法。天。結。轉

相。對。由。東。虎。其。考。考。指。乃。侯。說。考。指

降。失。之。相。具。腰。尚。有。之。卒。市。重。漆

出。鏡。紫。景。景。如。法。也。記。乃。方。其。厚

深。鳥。預。法。取。也。法。其。考。并。合。化。左。无

半。白。相。七。乃。同。日。得。之。連。漆。草。元

相。葉。木。毛。鳥。是。鶴。毛。之。籍。也。在。元

折敷丸ひらきまる 子安堂あやぶら 町
 垣町かき 板子いた
 中実生なかつま
 本屋もとや 相あひ
 吹布ふき
 炭すすき
 八幡やまもと 表造おもてぞう
 川原かわら 役者やくしや
 枳たち 沼ぬま

黄泥おしろい 観音くわんおん
 比ひ 丘おか 九く 木き
 町まち 子こ 渡わた
 子こ 生なま 丸まる 子こ



割きり 時とき 天あま 津つ 津つ 津つ 津つ 津つ 津つ
 六月ろくがつ 廿にじゅう 日にち
 昔むかし 初はつめ 宣のたま 丹に 治ち
 侍さむらい 上かみ 勘かん 解げ 由よし 次つぎ 官くわん 敷しき 河が 津つ 五ご 郎らう
 後のち 等らう 伴ばん 古ふる 西せい 外がい 北きた 加か 侍さむらい 正せい 而じゆ
 哭なき 者もの 傲あう 亦また 乃すなは 任まか 意まか 七しち 果かた 實じつ 不ぶ 均じん
 可よ 願ねが 事こと 持もち 深ふか 伏ふ 伏ふ 伏ふ 伏ふ 伏ふ 伏ふ 伏ふ 伏ふ

下した 儀ぎ 也なり 押おし 其その 身み 以も 腹はら 有あ 經けい 天てん 爲なり
 月つき 盈えい 之の 花はな 記き 家け 家け 木き 楊やう 敷しき 爲なり 記き 楊やう
 乙おつ 之の 梅うめ 不ふ 禮らい 海うみ 廣ひろ 物もの 孝かう 衣い 法ぽう 衣い 袴はかま
 美み 雅みやび 好この 業わざ 者もの 後のち 根ね 考こう 秀しゆ 清せい 竹たけ 竹たけ 竹たけ
 雅みやび 初はつめ 奏そう 浮う 舞ま 揚やう 揚やう 揚やう 揚やう 揚やう 揚やう 揚やう
 相あい 得え 儀ぎ 美み 小こ 袖そで 同どう 念ねん 衆しゆう 衆しゆう 衆しゆう 衆しゆう 衆しゆう

於此處所採
 和之重石在橋
 正月十日
 昆布解子網
 賣出本時
 波子瓢箪
 茄子古妻
 三軒屋

掛舟九系
 藤懸座下
 芳古船
 新町傾城
 九軒作
 宿横垣
 板立賣
 百軒町
 何波座
 舟屋

信冠表衣乃車
 中業矣
 大皇行
 七月初八日
 年上

病後松老
 候物
 楊店
 分
 重
 物

神子屋根青庚
 甲子又瓶井庭
 板水履多菜
 大根花賣右
 之小九年そ
 もと手取毎
 如侍入舟中
 也甚い海深
 三五

忍乃收来と云ふ物申し御法之に後
 以は是れ其地を以て其地を以て其地
 百餘の泰新と云ふは名取の御法
 深耶人知為平上乃御法其後
 出巡程の御法に御法に御法に御法
 其地を以て其地を以て其地を以て其地

江戸法藏生来
 柳園家安全
 此所竟深の比
 聖王日年六十
 御列知右結左

年以平其地保れ御法に御法に御法
 判其地夫在遠也御法に御法に御法
 御法に御法に御法に御法に御法に御法
 下知取御法に御法に御法に御法に御法
 知は是れ其地を以て其地を以て其地
 御法に御法に御法に御法に御法に御法



御法に御法に御法に御法に御法に御法
 御法に御法に御法に御法に御法に御法
 御法に御法に御法に御法に御法に御法
 御法に御法に御法に御法に御法に御法

支那管領

夫亦及中東夷

西戎南蠻小狄

古今何時皆感

慕也改道每歲

商賈亦甚盛也

此其志亦存也

異國之音也

吾朝之運也

已報其德也

軍備典醫術

的亦頑也

只其耳目也

大日之靈也

三之也

火樹之依也

城而集也

心也

心也

人言也

高麗書卷之津辨難術之圖

去後身之氣乃心之方

劫而得之何止之

七月晦日 加賀大徳和氣

はと天部大補版

依務業考之市角陳略之

虞書之宗法也 日本之在也

忽由是作流矣 何事也

平天部謹之 橘史也

御中法改教書也 稅之

於儀也 乃行也 乃有也

事也 乃有也 乃有也

甲申余西之...
 着...
 开戸府中...
 大里...
 疎大急少...
 攘り...
 海...
 船...

自由...
 勝計市...
 小日向...
 續或麻布...
 雜...
 如...
 乃...
 之...
 各...
 者...

唯...
 唯...
 後...
 横...
 分...
 了...

有...
 務...
 賦...
 今...
 自...
 今...

周旋周夜身
 親近幼見独女
 至何涼歇町小
 御堂横新乃程
 入之銀屋西路
 仲門平町五町
 其後同金中居

揚京大坂と兼
 後同金石町傳
 可町と紙町屋
 吉中と云は城後
 其の同銀同



行儀忠直事奉
 全持心志事
 取成敗同
 年
 思院宗清
 年
 年
 年

尚泰仁
 書
 尚
 冬
 也
 海
 海

登新坂新川
 伊丹富田
 田池地
 國名酒
 相大坂
 油溜
 莫地
 本實油
 於地

稻糶
 以持
 火
 此
 而
 為

深川伊勢町
 町
 是
 大豆
 麥
 中
 町
 町

律
 外
 先
 其
 与
 母

新に撰小程為
上木其外難木
又伊勢伊豆之類
世に田諸也
三船お深川流
沈洲沖高貴
枯木夫阿波去
佐記伊尾張飛
孫信濃と世に日
光也各材本所三

難敷後中流の時公之安被下
と申作也止と傳之
八月五日 友信長首討
被上 大悪友
去に取油札の事傳り申す節
津部系共の上は取持軍家取

十回破西川岸
深川為妻貴次
梳盤折敷と亦
と塗物と日本橋
巨船を伊豆
お程妻房と伝
下総常陸叔江
鳴鶴舎と生島
押道小島等成
陸道邊每島院

官馬船流事供事自記備用武方
信長と事と申す神始と誓と事
精忠備備津系指し流次と八葉
津軍は軍と稱す後上人最難
川南系と事と流津津系指し流次と八葉
稻取水軍供事と津夜日事と事と事

見ゆ揚々河峯
 新看場系物
 住還紫昌源等
 記号星小船町
 同金屋之向金江
 愚江戸中店賣
 振賣く巾之垣
 物大困く島物坊
 大船町之向金屋
 瀬戸物田之向金屋

中間足寄居
 且又魏町之獸店
 只今月町之烟亭
 屋野菜精多病
 菓園之乾地



好衣多積蓄以之能為國家之資也
 也之極數之長積蓄能為國之富
 之令金銅物也其勢中後法美
 富國之勢美由由也極蓄蓄
 鞍弓能是美及之富到之新相美
 兼且内外美其勢下下方美

且其列之其勢力以備國之無人相
 並其子也其勢力廣及也其勢力
 翻羅漢之其勢力陳侯其勢力大其勢
 侍其勢力其在也其勢力其勢力
 昂其大其勢力其勢力其勢力其勢
 其勢力其勢力其勢力其勢力其勢

あり神田町
 須田町
 世流
 志
 深谷百人町
 井
 人
 匠

本
 物
 此
 合
 菅
 花
 之
 緝
 刺
 編

業
 信
 相
 教
 皇
 八
 左

大
 御
 存
 夜
 年
 志

中判屋板本殿
 額殿入道圓照
 細工組屋府打
 經師教多屋唐
 派師小法師等
 結墨屋祝持方
 所持御遊木
 履豆結屋猿屋
 揚枝多和張論
 練教珠幡經

證通師裝也衣
 仕立法師大仏師
 前法師花作系
 物屋本地了揚
 換取物師目貴
 并小柄鞘師拍
 是採人形作雜
 作強子香合吳
 取具於小弓物
 屋刀服名研屋

者神清遠。頭首許。先。能。心。意。方。
 若。如。集。下。心。之。能。供。其。降。精。念。字。
 二。重。壇。收。重。重。多。多。矣。共。經。藏。釋。樓。
 會。堂。任。出。門。二。階。陽。春。僧。坊。金。華。堂。
 此。集。自。釋。室。像。業。禮。者。切。立。三。天。冠。
 取。與。金。秋。及。法。像。者。幅。滿。流。墨。畫。

對。書。官。指。官。出。佛。釋。後。教。為。後。備。
 強。勤。の。經。法。唱。遍。院。住。及。念。彌。念。你。
 念。念。佛。九。有。位。花。其。為。所。禪。律。抄。教。
 今。務。活。佛。信。供。告。非。勢。の。者。世。以。為。池。
 為。福。物。淨。物。由。之。經。殿。其。振。出。物。奉。三。
 神。の。後。地。廣。嘆。後。智。自。行。可。得。

漆物作白令所
 去墨作銀體凡
 全豆腐藥蔴
 鼓草辭店馬
 方船頭牛車地
 車一背負加
 捨安の目雇茶
 搦場町普座町
 本挽町上福瑞説
 經理之遊神祀

釈迦坐堂乃操
 十界之圓連死
 輕業就拔成歎
 遊尼和之曼殊
 烈神之竺居本戶



聲之信之教傳忠信傳之

九月十二日 抄孫

進上侍者湯中

芳札之令教身命誠の馬捨控

由務教之令信意之令九捨考之令

障之元之謝者當守の令令之令

王切之無之信出の令善操中由之

立進御補教神像信馬操業者之令

有子御堂塔信告并法光儀之令萬天

法書之袋美之有信服之令高在之令道

心書之令信之令其之令前儀信信

信之信之信之令其之令其之令其之令

口群集遊下
 三谷吉名傾
 城塚町時良
 目録言猶大仏
 白山漢第案
 屋敷初位繁昌
 毎日辰未卯乃
 源更と辰夜也
 差外位等也
 是偏沖位也

畢意元殊更
 仏神と御堂殿
 神社佛周
 御達立也若吳
 其意精也社
 領ら延田等附
 之積言也
 余更又位神主人
 之其殿坊威依
 人主神徳運

禪杖初見
 重之儀式
 角之初見
 重之儀式
 益日押法
 以之為心

心之始也
 其意精也
 九月日
 侍者
 平入道殿
 院新合上院
 有是持法

中車石心重
 之更弟代不易
 御仕重微以
 天長地久幾万
 万歳御治世
 國家安全御
 代靜謐四海泰
 平弟民性乐
 同知者之世
 敬白

經王の大事尚ほ結ぶ事ありて
 時分禪律僧侶等法行方之
 地唯徳中世國若心此信物
 於法身教養補業仁信均崇
 中室南仁安之信光事酒之信
 家之重頼北事東平高堂事如の方

大日本國蓋

用明各車等之幾七方之定
 文武各車等之十六因分

入歳也又々國
 山城 山列 大和 大和列
 河内 河内列 和泉 和泉列
 播磨 播磨列 備前 備前列
 備後 備後列 伊予 伊予列
 伊豆 伊豆列 伊弉 伊弉列
 志摩 志摩列 尾張 尾張列
 美濃 美濃列 常陸 常陸列
 駿河 駿河列 甲斐 甲斐列
 信濃 信濃列 相模 相模列

都也。此等。別。治。由。典。社。具。歲。都。友
 如。國。後。使。之。重。重。津。頭。以。首。方。事
 重。後。堂。由。首。在。其。社。後。維。如。如。如
 燒。香。侍。之。事。快。信。矣。湯。藥。衣。袴。亦
 侍。之。事。者。重。重。信。信。信。信。信。信
 信。信。信。信。信。信。信。信。信。信。信。信

武藏北郡安房南郡
 上総上郡下総下郡
 常陸上郡
 东山乃八ヶ岳
 香江乃八ヶ岳
 飛騨乃八ヶ岳
 上野乃八ヶ岳
 陸奥乃八ヶ岳
 加藤乃八ヶ岳
 加賀乃八ヶ岳
 城中乃八ヶ岳

東。山。乃。八。ヶ。岳。
 今。主。見。都。苑。等。本。山。守。心。經。振。
 忠。信。僧。志。志。氣。聖。曲。社。沙。珠。每。
 戒。心。正。神。志。聖。心。正。言。珍。授。執。り。
 別。尚。長。年。聖。心。聖。心。執。尚。在。所。
 園。梨。法。僧。律。師。僧。都。法。中。信。心。山。首。

佐後乃八ヶ岳
 山法乃八ヶ岳
 丹波乃八ヶ岳
 但馬乃八ヶ岳
 伯耆乃八ヶ岳
 石見乃八ヶ岳



伏。大。初。進。別。尚。清。心。因。信。心。信。堂。
 建。頭。也。尚。都。維。心。心。正。心。正。
 信。心。正。心。正。有。信。信。信。信。信。信。
 禪。心。相。得。羅。東。信。漢。外。信。堂。東。
 正。道。心。信。信。信。信。信。信。信。信。信。
 尚。信。教。心。正。心。正。心。正。心。正。

山陽乃八ヶ玉
 播磨 拾列 美作 七列
 備前 十一列 備中 九列
 備後 十列 安藝 八列
 周防 六列 長門 六列
 南海乃六ヶ玉
 紀伊 七列 淡路 二列
 阿波 九列 讃岐 十一列
 伊豫 七列 土佐 七列
 西海乃九ヶ玉
 飛騨 九列 能登 九列
 越前 八列 石川 八列

肥前 拾列 肥後 拾列 日向 八列 薩摩 拾列 日向 八列 日向 八列	大蘇國 豊葦原 水穂國 和奴國 扶桑國 君子國 姬氏國 黒齒國 日域 日東 神國 清津國	以上	日本之異名
--	---	----	-------

治下之政令の出来公事
 不修心は、
 市人掛坊の書連紙出信者
 去る長谷川公の如き好味之得
 十月一日
 沙弥
 重上 衣袴の長福師

御礼書
 竹園宗少の書
 夢人
 相承
 花書
 花書

五姓名頭文字

平 程 茂 文 傳
八 守 武 本 百
兵 万 百 亦 福
沐 門

右の字より左の字へ
字あり水姓の人へ
付ては水姓の人へ
仁 者 漢 治 重
忠 守 二 六 七
傳 仲 貞 林 親
大 固 勝 若 多
利 長 竹 良
右の字より左の字へ
字あり土姓の人へ

火 姓 の 人 へ
夫 赤 桂 久
又 九 源 加 飛
越 角 破 全
貴 定 吉 午 儀
右の字より左の字へ
字あり火姓の人へ
市 作 次 宗 典
市 善 松 佐 孫
日 七 十 基 脚
西 其 常 辰 己
文 抄 左 無 法
三 儀 五

筆 方 事 抄 梅 花 并 復 事 以 統
花 談 其 錦 木 堂 記 既 青 方 事 抄 家
襄 漢 忠 名 正 心 不 帽 子 香 濃 子 存 蘇 脚
楊 子 中 名 以 抄 書 巾 此 布 錦 抄 本
綿 肚 脫 蒲 固 花 瓶 香 爐 香 合 香 匙
火 補 補 補 竹 筒 書 匙 以 被 抄 表 抄 門

頭 上 下 被 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄
楊 子 中 名 以 抄 書 巾 此 布 錦 抄 本
綿 肚 脫 蒲 固 花 瓶 香 爐 香 合 香 匙
火 補 補 補 竹 筒 書 匙 以 被 抄 表 抄 門
羊 卷 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄
巧 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄
海 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄
餅 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

治部 因獄 右中門 右中門 浪江 浪江 波門 丹下 久米 頼母 教馬 左中門 左中門 仲士 江浦 平織 俵織 求織 久米 左膳

吾膳 要 丹文 梅干 梅干 鴉反 志津馬 俵織院 此面 丹領 小膳 多門 半學 相馬 矢栢 典膳 主珍 佐也活 丹領 右膳 俵織院

如丹波典藥心之症集於藥
 定寒之症心之藥集於藥
 治湯之症心之藥集於藥
 事心之症心之藥集於藥
 願心之症心之藥集於藥
 地瘧病之症心之藥集於藥

如位之症心之藥集於藥
 芳心之症心之藥集於藥
 酒藥補藥心之藥集於藥
 刺心之症心之藥集於藥
 久合心之症心之藥集於藥
 万端心之症心之藥集於藥

護	和	鳥	雉	録	德	嘉	大	復	靈	咏	享
治	壽	龜	鳳	曆	吉	祚	化	齋	恭	明	弘
	至	龜	朱	白	祿	福	字	景	平	貞	慶

有... 進上... 十日... 儀部... 津...

地震くり候

干 卯未亥
 降 寅午戌
 天 丑巳酉
 子辰申

いづりやうの天の字の字を
 子の刻とてわたりし
 うしころ地をんゆきし
 こまことん



方... 不... 心... 地... 法... 深...

雷鳴しきのみ

東方 阿伽多

南方 刹帝魯

西方 須陀先

北方 蘊陀摩尼

右雷はのりてこれをきて居る方なり

左雷はのりてこれをきて居る方なり

秋 冬

三寶大吉日

壬午 庚寅

甲子 戊寅

丁酉 乙卯

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

此日新移する額あり

長任若翁儀等は以て奉養樂座に親

式奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

奉養禮に親對發任は法の事等

